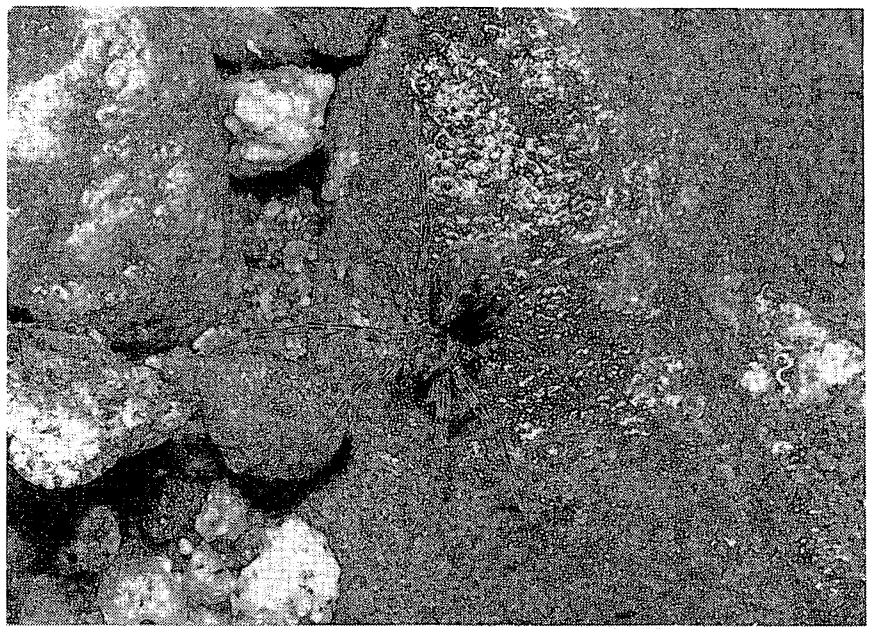
ISSN 0288－4879

しのびぐも

第27号



1999

三重クモ談話会

しのびぐも

No. 27, Dec., 1999

目　次

福島彬人：蜘蛛三題 …… 1
緒方清人：伊那市とその周辺のクモ …… 5
新海　明：東日本でのシノビグモの採集記録 …… 9
貝發憲治：上野市の真正クモ類　（その１：概要） …… 11
石井こうこ：合宿に参加して …… 17

三重クモ談話会活動報告 …… 19

三重クモ談話会会員名簿 …… 30

表紙説明

Shinobius orientalis YAGINUMA　　しのびぐも　雌成体

1986年6日6日，愛知県北設楽郡段戸裏原生林にて緒方清人氏撮影。

このクモは、1965年5月4日　三重県一志郡美杉村川上にある三重大学平倉演習林横の渓流から、橋本理市氏によって最初に発見された。その特異な形態と生態が注目されている。

しのびぐも　No. 27, Dec. 1999

蜘　蛛　三　題

福島　彬人　※

■　ハラダカツクネグモの飼育　■

◇…秋田市で、ハラダカツクネグモを採集し飼育してみた。このクモは体長1mm ほど。腹部が体長よりも高く後方に隆起して、いくつかの突起を持つ極めて奇妙な形をした微小なクモ。1985年に新種記載されたのち東京、三重、愛知、埼玉県などのほかは採集例がほとんど無い。したがって習性は全く不明である。

◇…採集は1999年４月４日、秋田市の秋田大学医学部裏山に続く小友沢沼の周遊樹林内であった。ネットによるビーティングで、この日は杉の木の葉から雄１匹と、普通のツクネグモもいっしょに採集された。やや太めのガラス管に杉の葉とともに入れたところ、翌日に最終脱皮して成体になった。網は杉の葉先に２本ほどのスジ糸を引き、その端にじっとしているだけで、小さい羽虫を与えても知らんふりをしている。弱ってきたので、爪楊枝の先に水をつけて与えたところ、しがみついて水を吸う。

◇…雄がいるなら雌もいるはず、と次週にまた沼を訪れて、一日がかりで夢中でビーティングしたところ、帰りぎわになって妻のネットに雌の成体１匹が入った。この山域はクマが出没するところで、この年の秋にキノコ採りの男性が遭遇してケガを負っている。だからビーティングのときには、どちらかが見張り役をしていなければ危険である。

◇…とにかく大喜びで雌を持ち帰り、雄のビンの中に入れてやる。雄の引いた糸に触れるとあわてて逃げる。30分ほどすると雄の近くを行ったり来たり。お互いに腹部を見せ合う形ですれ違う場面もあったが、交接の気配はない。小さい羽虫につき当たってはポロリと落ちて、３分間ほど死んだふりをする。その後あわてて杉の葉裏に逃げる。虫の種類を変えて与えるがどうしても食べないので、生息していた小友沢沼まででかけて何種類かの小さい羽虫類をビンの中にいれるが、どの虫も食べる気配はなかった。

◇…それから一週間目、雄が死亡。それから二週間後に雌も死んだ。結局、糸に何かの誘因物質が仕掛けてあり、それに誘われるある種の虫類しか食べないという特殊な生態を持っているのかもしれない。このほか飼育中にはいくつかの知見もあったが、私の不勉強で肝心の食餌や交接などグロテスクな姿ならではの生態をつかめなかったのが残念である。だからこの稿は『飼育失敗の記』である。2000年という新しい年に、再度、小友沢沼の杉林で採集に挑戦したい。

※　〒010-0013　　秋田市南通築地16-1

■　冬のクモ　■

◇…ここ数年、冬のクモに興味を持ってきた。冬のクモといっても、雪の降らない地域や積雪量の少ない地域と違って、私の住む秋田市はかなりの積雪地帯、とくに内陸部で多い時には一夜に1mも積もる。そして例年12月から5月まで半年近くは雪の中で暮らす。だから同じ種類のクモでも生息する地域によってその生態が大いに異なるものがある。

◇…秋田の冬といっても、秋からいちどきに冬を迎えるわけではない。晩秋、枯れ葉の舞うころから霜、あられ、みぞれ、初雪と数段階にわたって冬へと動いていく。クモたちもその次第によって耐寒性を強めながら、越冬場所可能なる場所へと移動していくのである。私はそれを『クモの渡り』と呼んでいる。どのクモがどのような形で冬を越すのかということはまだ述べるべき資料が少ないが、ここ数年間の知見は次のようなものである。

◇…12月から3月まで同じ場所で採集してみると、面白いのは土中や樹皮下に潜り込まない種類の越冬場所は秋田杉の葉の間であった。風が直接当たらない比較的温暖な方位に生えているところである。そのような場所では、ビーティングしてみるとかならず10種類近くのクモが面白いほど採集できる。そのクモは春から秋まで近くの一帯で生活していたもので、杉の葉の細かい葉の間に潜り込むだけで、特別な越冬方法はないようだ。冬の魚類は川のよどみに集まってくるので、ここで「ため漁」という漁法で一網打尽にするが、クモも同じような感じである。もちろんツバキなど常緑樹の葉裏などのビーティングでも冬のクモは採集できるが、その種類と数はごく少ない。とくに夏季は落ち葉の下などを生活圏にしているネコグモが杉の葉間で多く見つかるのは樹木をはい上がるものか、それともバルーニングによる移動なのか不思議に思えるほど数が多い。またホシミドリヒメグモの耐寒性は強く、ツバキの葉裏に糸を少し巻つけた形で雪をかぶったままの姿をよく見かける。しかしオオヒメグモは実験ではかなりの低温でも生きていることになっているようだが、風の吹きさらし状態の場所ではマイナス4度が4～5日続けば、死にいたるようだ。

◇…いまのところ、村落の林縁や低い山地での調査のみで、深山での冬の調査は空白である。いずれ雪国の冬のクモとして個々の種類の越冬の仕方に、何らかの方程式めいたものがあるのでは、と考えている。

■　秋田のジョロウグモ　■

◇…秋田では暮れの11月6日にミゾレが降り、前年より3日遅れの初雪となった。わが庭に住んでいた1匹のジョロウグモは、この日に一生を終えた。春6月20日ごろ住みついてわずか5か月たらず。北国のジョロウグモの一生は早い。3匹の雄を従えていたが、ついに産卵をしないまま死を迎えてしまった。例年は10数匹も住んで秋を迎えるのだが、春に庭木の大掛かりな伐採をしたことで、庭内の風の流れが変わり、その環境に耐えられなかったと思う。クモの民俗について聞き取りを続けているうちに、気の滅入るような話を聞いた。海岸地域に住む30代後半の男性からは、網の中のジョロウグモを的にゴムのパチンコでねらい撃ちに落として遊んだ。内陸部の50歳代後半の男性からは、秋にまるまる太ったジョロウグモ（つまり産卵前の）を手でつかみ取って地面に強くたたきつけ、バンと腹のはじける音を楽しんだ、という。お二人とも私の目をそらしながら申し訳なさそうに話してくれた。また、ジョロウグモを棒でたたき落としたり、石を投げつけて落としたりなどは、ふんだんに遊び

として行われていた。もちろんいまから何10年も前の話で一見残虐とも思えるが、それもこれも一つの民俗。人間と蜘蛛とのつき合い方の一つであったのであろう。

◇…秋田のジョロウグモは、量的に非常に少ないとよく言われるようだ。本州北限の青森に地続きのすぐ手前だから、当然であろうとの識見である。私は「秋田はクモの天国」という題で書いたこともある関係で、『そんなにジョロウグモが目減りしているのかなー』と考え考え昨年9月10日に秋田市新藤田から戸平川橋まで2キロほどの山裾の道でカウントしてみた。この道は仁別国民の森に通じる自転車道で、左は田んぼ、右は低い山並みが続いている。歩きながら左右3メートルほどでの確認であったが、総合計2447匹（雌1356、雄1091）であった。また8月16日には街のド真ん中、千秋公園内二の丸を調べたところ、637匹（雌雄）であった。1996年9月の調査では、自転車道が半数の距離で797匹（雌506、雄291）。また千秋公園は本丸と二の丸で1288匹（雌721、雄567）という数字が出ている。他の府県のことは未知なのでなんとも言えないが、この程度の生息数では少ないものかもしれない。

◇…20数年前、八木沼先生から資料を補っていただき「クモと農業」と題して書いたことがある。戦後長らく農薬使用は農業公害といわれ続け、クモの受難時代であった。ちょうどそのころ、北東北地方のジョロウグモと出会いの機会を持ったクモの研究家がいた。ところが青森県内で見つからず秋田県内の雑木林などでようやく40〜50匹ていど観察することができたという。米の主産地である東北地方ではまだまだ農薬使用による影響が多岐にわたっていた時代。ジョロウグモが目立たなくなった、といわれていたころだから、旅に出てジョロウグモを探すのは困難だったのかもしれない。もちろん農薬のクモに与える影響は全国的なるものであったのだが、地域差を計画に入れなかったための、採集誤差であったのだろう。

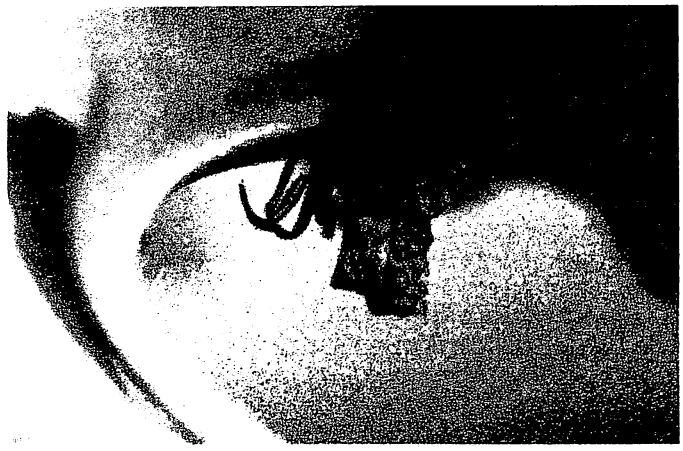
◇…造網性のクモは風向きによって造網の方位、場所を決めるむきがある。半永久的な網をつくる大型のジョロウグモは、とくにこの選び方が厳しい。つまり風の吹き抜ける場所を避けて、風の流れが舞うような樹間で主に造網する。だから場所によっては10匹でも30匹でも集合して網を張る。本来、社会的な所産である人間同様である。このような位置は、餌となる虫類がよく舞い飛んでくる。過ぎる季節の早い東北地方では、造網場所が子孫を残す決め手にもなる。

◇…こんなわけで、ジョロウグモにとって環境の悪い場所では、探してもほとんど見つからない。そして、いるところにはたくさん住んでいる。しかしこのような場所でも年中不変ではない。たとえば千秋公園の場合、公園内に管理事務所があって、いつも6人ほどの作業員が詰めており、早春の桜、6月のサツキ、夏の竿灯祭り、晩秋の樹木へのコモ巻きなど年間数回も枝払い、除草など人の手が入る。ジョロウグモにとって生息する環境が壊されるのである。これらのどの時期をとってジョロウグモの生息数といえるのか、私にはよくわからないが、クモにとって環境の悪い時に調べては、非常に少ない生息数となる。自然山野のなかでも大小の差こそはあれ、残念ながら似たような結果に陥ることになる。

◇…ジョロウグモは、基本的には蹄型円網の前後に荒い網を持つ3重網とされている。クモの背中のほうの網は、ゴミ捨て場との見方もある。よく観察していると、クモはゴミを尻に付け、また口にくわえて網の最上部をクルリと回り、補助網にヒョイと付けて戻る。まるで人間のゴミ捨て動作そのものである。だが網に付いた大小さまざまな異物は、口で糸をかみ切って下に落としているときが多い。何を条件にしてゴミを選別しているのだろうか。ま

た前後にもう１重づつ、つまり５重の網をつくっているジョロウグモも見かける。さらに卵からかえって間もないころと、晩秋に風で網を吹き飛ばされたあとは、円網に近い網を作ることもある。問題の補助網は集合生活をしてゆくうえでの「垣根」とも見られるのではないだろうか。多くの集合してしているグループを見ていると、お互いの補助網を侵さずうまく利用してそれぞれ向きを変えて網を張りめぐらし、捕虫の効果をあげている。人間同様、社会性の強いクモにとって垣根の役割を果たしていることは、事実であるようだ。

◇…ジョロウグモの中令個体には、蹄型円網の上部から下部にかけて幅広い「かくれ帯」をつけることもある。オオジョロウグモも中令個体では「かくれ帯」の存在が観察されていることが知られているから、ジョロウグモに「かくれ帯」があっても別に異なることではないだろう。「かくれ帯」は網の補強とかクモの保身、餌をおびき寄せるためなど、いろいろな説がある。数日に一回、網の半分ずつを張り替えるので、観察時の幸運とよほどの条件が整わなければ「かくれ帯」は見ることができない。「かくれ帯」の存在はたまたまのまぐれ的なものであっても、ジョロウグモの起源に由来するような、先祖がえりの行動の一つと見てもよいのではないだろうか。



１９９９．４．４秋田市　小友沢

伊那市とその周辺のクモ

緒方清人

1998年6月から1999年10月にかけて長野県伊那市とその周辺でクモの採集を行った．その結果12科51種（不明種含む）を確認した．採集地点と年月日は下記に示すとおり①～⑦である．

①上伊那郡南箕輪村信州大学濃学部構内：A. 1999. 5. 20 ・B. 5. 28・C. 6. 16（緒方ふみ採集）・10. 11，②伊那市駒ケ岳山麓（標高約1000m～1500m）：A. 1997. 10. 25・1998. 6. 7, ③伊那市内：1999. 10. 9，④伊那市手良（小沢川沿い標高約700 m～800 m）：1999. 10. 9，⑤上伊那郡長谷村（鹿嶺高原・標高約1800m）：1998. 10. 25, ⑥上伊那郡長谷村（仙丈岳中腹・標高約2400m）：1999. 10. 11, ⑦中央自動車道駒ケ根サービスエリア内：1996. 9. 14．

いずれも家族と行動を共としているので，クモを主体とした採集は1度もない．主なる目的は①信州大学濃学部構内でのキノコ狩り，②駒ケ岳山麓小黒川でのイワナ釣り，③図書館を利用た際トイレでの確認，④娘の案内でサルナシとアケビが目的，⑤キノコ狩り，⑥登山，⑦松本市に向かう途中に休憩した僅かな時間，等々である．しかし，それなりに成果はあった．愛知県では確認されていないタカネエビスグモを駒ケ岳山麓（標高約1200m）で，鹿嶺高原（標高約1800m）ではチリコモリグモとエゾコモリグモを確認した．セスジガケジグモは県内では北設楽郡設楽町裏谷に限られているが，駒ケ岳山麓（標高約1200m）では樹皮の隙間に生息していたし，駒ケ根市内では建物やガードレールの隙間に普通に生息していた．また，信州大学濃学部構内の松を主体とした林床でオオクマヒメドヨウグモの確認は大きな収穫であった．

発表にあたりお教示ならびに同定をしていただいた小野展嗣氏，谷川明男氏に心からお礼申し上げる．また，標本を恵与していただいた緒方ふみ氏にお礼申し上げる．

表－1　①～⑦地点で確認したクモの種数

種　名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	備　考
1．セスジガケジグモ		♀2						
2．トウキョウウズグモ			♀1					市立図書館内
3．オオヒメグモ							♂2	
4．アシブトヒメグモ		♀1						

1)〒472-0022　知立市山屋敷町東山10-6

5．シモフリヒメグモ		♂1						
6．タカユヒメグモ		♂1 ♀1						
7．コケヒメグモ		♀2						
8．アシヨレグモ		A.♀2						
9．クスミサラグモ		♀1					♀SA1	
10．ツリサラグモ		y1						
11．コシロブチサラグモ		♂1						
12．ヤマジサラグモ	y2							
13．ヘリジロサラグモ	y1							
14．ヌカグモ		♀1						
15．サラグモ科の一種		♀1						
16．ヤミイロオニグモの近似種		♂1						谷川明男氏同定
17．イシサワオニグモ		A.♀		♀2				
18．オニグモ		♀1 y2						
19．ムツボシオニグモ		A.y1		y2				
20．ゴミグモ		y3						
21．イエオニグモ							♀1	
22．ヤマシロオニグモ							♀1	
23．コオニグモモドキ		♀1						
24．カラフトオニグモ		♀1		y1				
25．オオクマヒメドヨウグモ	y2							
26．メガネドヨウグモ		♀1		y8				
27．ジョロウグモ		♀15						
28．ミドリアシナガグモ		♀2						
29．エゾアシナガグモ		♂1						
30．イナズマクサグモ	C.y1							
31．クサグモ		y1						
32．ナミハグモ属の一種						♂1		
33．チリコモリグモ					y7			個体数多い
34．カワベコモリグモ				♀1				幼体も確認
35．ウヅキコモリグモ	♀SA1 y3				y1			
36．ヤマハリゲコモリグモ		A.y1・♀1						
37．エゾコモリグモ					♀2	♀2		着卵個体あり
38．オオアシコモリグモ属の一種	y1							
39．ヒノマルコモリグモ	A.y1							
40．マイコフクログモ		♂1						小野展嗣氏同定
41．ウラシマグモの一種		♀1						小野展嗣氏同定
42．エビチャヨリメケムリグモ	C.♂1							
43．メキリグモ	B.♀1							
44．アマギエビスグモ		♀1		y1		y1		
45．タネエビスグモ		A.♀1・y1						
46．カラカニグモ	C.♂1							
47．ヤマジハエトリ	♂1							
48．オオハエトリ						♂1		
49．ウススジハエトリ		y1						
50．ハエトリグモの一種	C.y1							
51．ハエトリグモの一種					y1			

目録の配列は八木沼（1990）に従う

図１　セスジガケジグモ♀
1999.6.7　伊那市駒カ岳山麓

図２　ヤミイロオニグモの近似種♂
1999.6.7　伊那市駒カ岳山麓

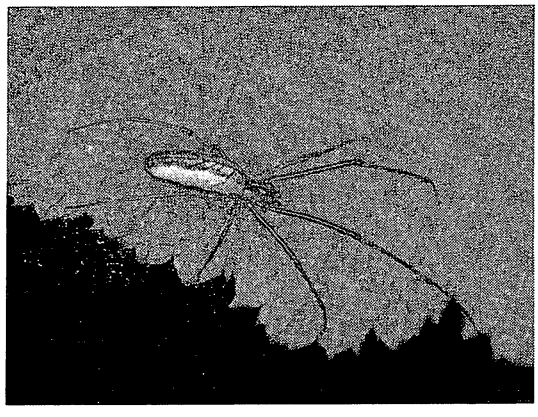


図３　ミドリアシナガグモ♀
1999.6.7　伊那市駒カ岳山麓

図４　マイコフクログモ♂
1999.6.7　伊那市駒カ岳山麓

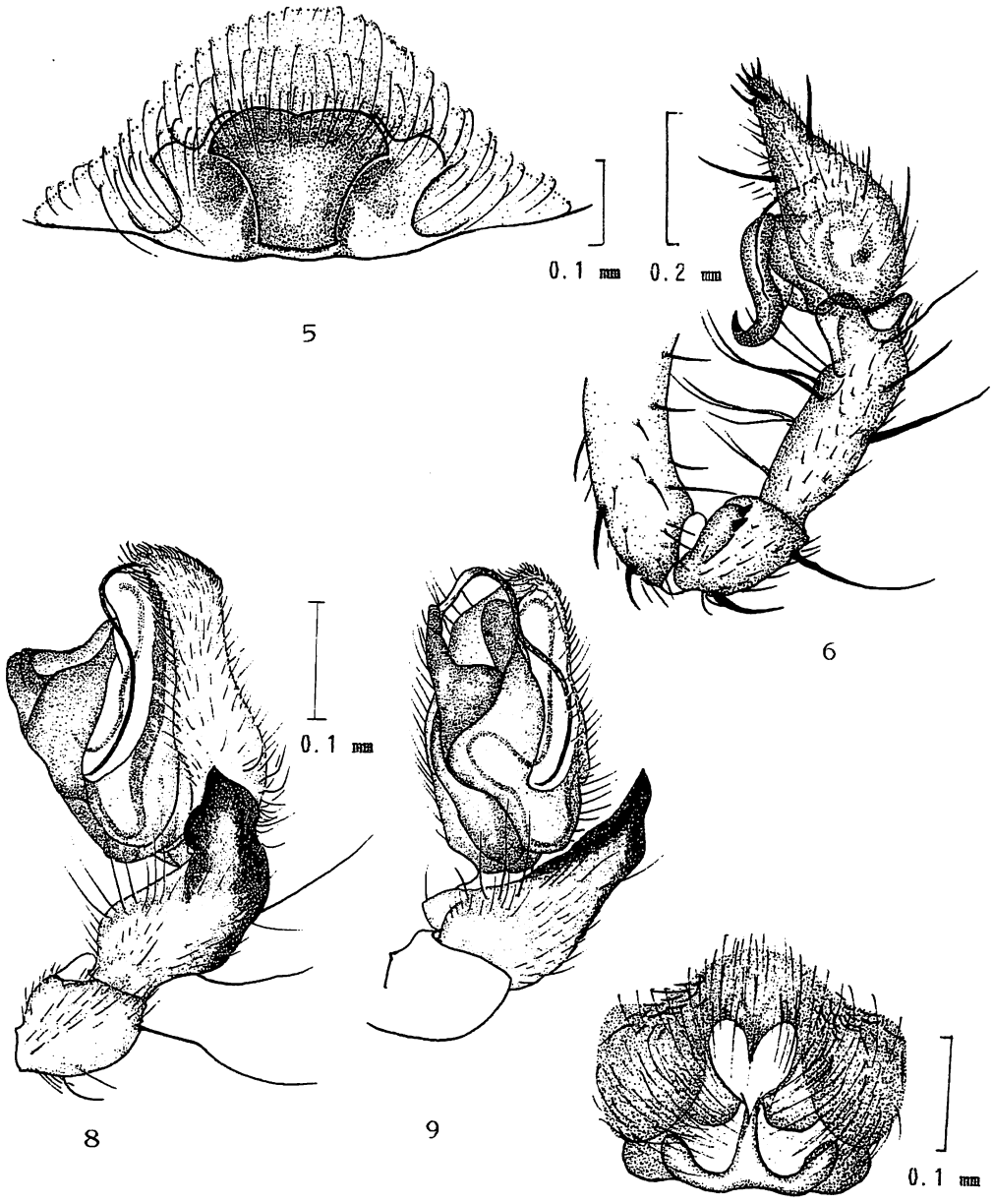


図５　セスジガケジグモ♀外雌器　図６ナミハグモ属の一種♂触肢　図７エゾコモリグモ♀外雌器　図８・９マイコフクログモ♂触肢側面・下面

しのびぐも　No. 27, Dec. 1999

東日本でのシノビグモの採集記録

新　海　　明*

1998 年 7 月に行なわれた東京クモ談話会の秩父合宿でシノビグモが採集されたことはすでに報告した(新海他,1999)。これが関東地方での初記録だと思っていたところ、実はこれ以前にも新海栄一氏が群馬県においてすでにシノビグモを採集していることが判明した(新海栄一,私信)。ここでは、1999 年 12 月末日までに私が知り得た東日本各地でのシノビグモの採集記録を報告したい。

①北海道札幌市南区定山渓札幌湖付近　1994 年 7 月 29 日　幼体 1　採集者不明
(谷川,1995)
②秋田県北秋田郡藤里町太良峡　1997 年 8 月 16 日　♂亜成体 2　福島彬人
(新海・谷川,1998)
③群馬県谷川岳マチガ沢　1988 年 6 月　♀亜成体 1　新海栄一
(新海栄一,私信)
④埼玉県秩父郡大滝村東大秩父演習林　1998 年 7 月 26 日　♂亜成体,幼体 3
今井正巳他　(新海他,1999)
⑤長野県南安曇郡堀金村三股　1992 年 8 月 20 日　♀成体 2,♂成体 1　谷川明男
(谷川明男,私信)

これらの記録はシノビグモが特定の地域のみに分布するのではなく、日本(あるいは東日本)全土に広く生息している可能性が高いことを示している。私の限られた経験から言うと、同様な環境に生息しているアオグロハシリグモの幼体と誤認している可能性がある。成体のサイズはシノビグモが♀ 7.8mm ♂ 6mm に対して、アオグロハシリグモでは♀ 22-25mm、♂ 12-13mm(八木沼,1986)と大きく異なるので見間違うことはないが、幼体を一見しただけで区別できる者はあまりいないであろう。

今後は、「山間部の渓流ならば日本各地どこにでも生息しているかも知れない」という「予断と偏見をもって」採集することも必要だろう。

この報告をまとめるにあたり、谷川明男氏と新海栄一氏には貴重な採集情報を教えていただいた。ここに御礼申し上げる。

---

* 190-0022 立川市錦町 3-12-16-1103

引用文献

新海明・谷川明男,1998.　採集情報.　遊絲(2):5
新海明・千田高史・宮下直,1999.埼玉県秩父地方(大滝村・秩父市)のクモ.
Kishidaia(77):111-118.
谷川明男,1995.北海道にもシノビグモがいる.Kishidaia(69)39.
八木沼健夫,1986.原色日本クモ類図鑑 305P.保育社,大阪.

しのびぐも　No.27, Dec. 1999

上野市の真正クモ類（その１：概要）

貝　發　憲　治※

(1)　はじめに

伊賀上野市に関するクモ類の文献としては、橋本理市が上野高等学校在任中の 1960 ～ 1963 年に精力的に調査を行いまとめたものが数多く見られる。このうちの主な報文は「三重県上野市を中心とした伊賀地方の蜘蛛目録」(1961)や「伊賀の蜘蛛」(1961)、「三重県産真正蜘蛛類目録(予報)」(1963)等があり、これらの中で、25 科 148 種を記録している。しかし、その後は、近辺の名張市や美杉村、伊賀町、一志町等の調査結果が見られるものの、上野市に関するまとまった記録はない。

そこで、1996 ～ 1999 年にわたり、30 数年ぶりに上野市内各地で現地調査を行ったところ、一応の成果を得たので、ここにその結果を報告する。

本報告に当たり、標本の同定や写真の提供、ご助言等を賜った日本蜘蛛学会会員緒方清人氏に厚く感謝の意を表する。

(2)　調査期間、調査場所および調査方法

調査は、1996 年 7 月から 1999 年 8 月の 3 カ年にわたって実施された。

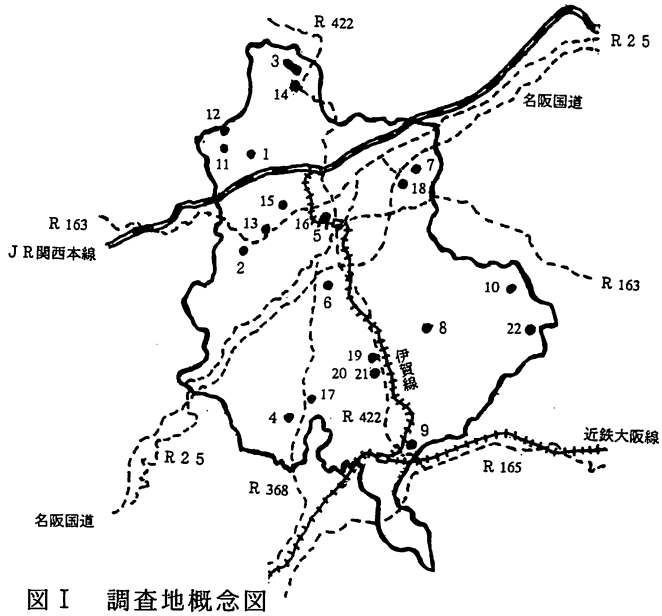
調査場所は市域内の森林、多種の雑木林、雑草地、茶園や田畑、河原、家屋近辺等、多くの環境を選んで行った。

詳しい調査場所および調査年月日は次の通りである。なお、〔　　〕内の数字は、松本(1979)による Locality Code を示したものである。

1	西高倉（鳥居出）〔C3605 － 3447〕	16 －Ⅸ－ 96	8 －ⅩⅡ－ 96	
2	長田（三軒屋）〔C3605 － 3445〕	18 －Ⅴ－ 97	22 －Ⅶ－ 96	16 －Ⅸ－ 96
		8 －ⅩⅡ－ 96		
3	諏訪〔C3606 － 3449〕	22 －Ⅷ－ 99	18 －Ⅴ－ 97	22 －Ⅶ－ 96
		16 －Ⅸ－ 96	8 －ⅩⅡ－ 96	
4	蔵縄手〔C3606 － 3441〕	18 －Ⅴ－ 97	22 －Ⅶ－ 96	16 －Ⅸ－ 96
5	白鳳公園（丸の内）〔C3607 － 3446〕	26 －Ⅳ－ 97	31 －Ⅶ－ 96	6 －Ⅹ－ 96
6	守田町〔C3608 － 3444〕	24 －Ⅴ－ 97	31 －Ⅶ－ 96	6 －Ⅹ－ 96
		11 －ⅩⅡ－ 96		

※　〒 515-0044　三重県松阪市久保町 1843 の 157

7	千歳〔C3610 − 3447〕	24 − V − 97 11 − XII − 96	31 − VII − 96	6 − X − 96
8	沖〔C3610 − 3443〕	24 − V − 97 24 − XI − 96	28 − VII − 96	14 − IX − 96
9	比土〔C3610 − 3440〕	26 − IV − 97 11 − XII − 96	28 − VII − 96	14 − IX − 96
10	喰代〔C3613 − 3444〕	25 − V − 97 24 − XI − 96	28 − VII − 96	14 − IX − 96
11	西山地区の渓流〔C3604 − 3447〕	22 − VIII − 99		
12	御斉峠渓流の沢（西山）〔C3604 − 3448〕	8 − VI − 98		
13	射手神社（三軒屋）〔C3605 − 3445〕	8 − XII − 96		
14	諏訪神社（諏訪）〔C3606 − 3449〕	8 − XII − 96		
15	新長田橋付近の川原（長田）〔C3606 − 3446〕	8 − VI − 98	27 − IX − 98	
16	上野市庁舎近辺〔C3607 − 3446〕	27 − IX − 98		
17	田守神社（蔵縄手）〔C3607 − 3441〕	11 − XII − 96		
18	敢国神社（一の宮）〔C3609 − 3446〕	11 − XII − 96		
19	依那古橋付近の川原〔C3609 − 3442〕	26 − VIII − 97		
20	神戸神社（上神戸）〔C3609 − 3442〕	24 − XI − 96		
21	暗崎橋付近の川原（上神戸）〔C3609 − 3441〕	26 − IV − 97		
22	高山地区の渓流〔C3613 − 3443〕	22 − VIII − 99		



図Ⅰ　調査地概念図

調査方法は、目察手どり法やスウィーピング法、ビーティング法、シフティング法を併用し、できるだけ多くの生息環境から採集するように努めた。採集した標本は、75 %エタノール入り管瓶へ入れて持ち帰り、のち同定を行った。

(3) 調査結果

今回の調査結果と、過去の文献の記録をまとめると、上野市域で確認された真正蜘蛛類は 35 科　143 属 304 種であり、これは、三重県既確認種の科の 89.7 %と種の 70.7 %に当たり、一地域の調査結果としては非常に多いものとなった。また、新しく三重県産に加わった主は、アシハグム、ムツメカレハグモ、アカハネグモ、イワワキアシブトヒメグモ、ツノナガイソウロウグモ、ムナボソミジングモ、シモフリヒメグモ、チビホラヒメグモ、キテナガグモ、ナニワナンキングモ、アバタムナキグモ、アサカワゴマグモ、オオイオリヒメサラグモ、ナカムラオニグモ、イナズマクサグモ、ハタチコモリグモ、ヤマトフトバワシグモ、クロケムリグモ、マツモトオチバカニグモ、チクニエビスグモの 20 種という多きにわたった。この結果、三重県産真正蜘蛛類は 39 科 192 属 450 種となった。上野市域を北限または南限とする種類はないが、「日本産真正蜘蛛類目録」(八木沼：1977) に従えば、「旧北区」系が 20 種、6.6 %、「全北区」系が 6 種、2.0 %、「東洋区」系が 11 種、3.6 %、「世界共通種」は 9 種、3.0 %で、残りの 258 種、84.8 %は日本基本種である。これらの占める割合をみると、三重県の他地域と異なり、特に「旧北区」「全北区」系の北方種が非常に多く、南方種が少ない。このことは、上野市域が内陸性の盆地の中にあり、寒暖の差が大きいことが、寒地性のクモの生息を有利にしているものと考えられる。

(4) 注目すべき種類

資料にもとづいて、当地域で注目すべき種類をまとめると次のようである。

1　ワスレナグモ　　明るく乾燥した床下に蓋のない管状住居を造っているので、発見しにくい。1960 年に西町で記録されているが、今回は確認できなかった。時間をかけて多くの目で見れば、各所に生息するものと思われる。

2　アシハグモ　　長田地区の木津川川原の雑草地から採集された。三重県初記録。

3　ムツメカレハグモ　体長約 2mm の 6 眼のクモ。諏訪、蔵縄手のリター中から雄亜成体 5 頭、雌成体 1 頭が採集された。三重県初記録種。

4　アシハグモの一種　蔵縄手にて雌成体 1 頭が採集された。おそらく新種であろう。

5　アカハネグモ　　体長約 1.5mm の 6 眼の微少なクモで、沖にてリター中を跳ねているのを採集した。三重県初記録種、採集例は少ないようである。

6　イワワキアシブトヒメグモ　　採集例の極めて多いアシブトヒメグモに似るが、生殖器の相違からで区別できる。大阪、和歌山で記録されている。今回、沖、喰代にて確認された。三重県初記録種。

7　ツノナガイソウロウグモ　　フタオイソウロウグモに似るが、頭上、額上突起が長く、生殖器の相違から区別できる。各地で記録されだしてきた種。諏訪にてクサグモの網上から雄 1 頭を採集。三重県初記録種。

8　ムナボソミジングモ　　諏訪にてリター中から採集された。採集例は少ない。三重県初記録種。

9　ヤマトミジングモ　　樹木の葉裏に不規則網を張っている。本州の高地に生息すると言われるが、三重県中～南部地方では山地で数例発見されている。今回、諏訪、蔵縄手、守田町、比土で確認された。ヤマトカブトヒメグモから改称された。

10　ハラダカツクネグモ　　腹部の高い隆起と多くの突起が特徴で、本州・九州に分布しているが、採集例は少ない。喰代にて確認された。熊野市に次いで県2例目の記録。

11　シモフリヒメグモ　　北方系のクモで、本州高地から北海道にかけて分布している。コケヒメグモに似るが、やや小型である。千歳にて草間に不規則網を張っていた。三重県初記録種。

12　ヒメグモ科の一種　　長田にて採集。おそらく新種であろう。

13　ヒメグモ科の一種　　喰代にて採集。おそらく新種であろう。

14　チビホラヒメグモ　　蔵縄手、守田町の草地のリター中から採集された。小型のホラヒメグモである。三重県初記録種。

15　タテヤマテナガグモ　　落葉や草の根もとの隙間にシート網を張る。名張市で多く確認されており、今回、千歳にてリター中から採集された。

16　キテナガグモ　　高山性のクモで北アルプス一帯でみられる。今回、千歳にてリター中から雄成体2頭、雌成体1頭が採集された。三重県初記録種。

17　ナニワナンキングモ　　特に珍しいクモではないが、三重県では今まで確認されていなかった。新長田橋付近の川原にて採集した。

18　アバタムナキグモ　　千歳にてリター中から採集した。三重県初記録種。

19　アサカワゴマグモ　　沖にてリター中から採集した。三重県初記録種。

20　オオイオリヒメサラグモ　　蔵縄手にて採集。三重県初記録種。

21　サラグモ科の一種　　各地にて10種の雌雄成体を採集した。おそらくすべて新種であろう。

22　コツブグモの一種　　千歳の雑草地、御斉峠渓流の沢から採集された。ナンブコツブグモとは別種である。三重県初記録種。

23　キザハシオニグモ　　長田、守田町、沖の草間にて10月、12月に幼体、5月に成体を採集した。

24　ナカムラオニグモ　　年平均気温15℃を南限とする北方系のクモで、愛知県等の近隣では広くみられるが三重県では記録がなかった。今回、守田町を初め6地域の水田の側溝やその付近の草間に円網を張っているのを数多く確認した。三重県初記録種。

25　ヌサオニグモ　　三重県南部では多くみられるが、中北勢地方ではほとんど記録されない。今回、市域で普通に見られた。

26　コケオニグモ　　樹皮のコケの中に潜み、コケ様体色をした大型のクモで発見例は少ない。過去に三田、与野にて橋本が確認している。

27　トゲグモ　　南方系のクモで、山地の樹間に垂直円網を張る。文献によると上野市域の4地域で記録があるが、ここ 20 数年間、三重県からの記録はない。

28　ゴマジロオニグモ　　崖地にみられる。荒木で記録があるが、今回の調査では確認できなかった。

29　ゲホウグモ　　喰代、千歳にて幼体がビーティングの網に入った。冬場にこまめに探せば各地にかなり生息しているようである。

30　エゾアシナガグモ　　沖にて採集した。美杉村平倉、菰野町朝明渓谷、亀山市野登山についで県4例目の記録である。

31　ハラダカグモの一種　　千歳にて、低木のビーティングで採集。三重県初記録種。

32　イナズマクサグモ　　北方種で山地にみられるクモ。クサグモに似るが、生殖器で区別できる。沖にて採集した。三重県初記録種。

33　ナミハグモ属の一種　「日本クモ類大図鑑」（千国著）に掲載されているナミハグモ（A型）のクモ。

34　ハタチコモリグモ　　沖、喰代、新長田橋付近の川原の土手の雑草地で地表を徘徊しているのが採集された。三重県初記録種。

35　カガリビコモリグモ　　守田町の畑にて採集された。四日市市に次いで県2例目の記録。

36　イサゴコモリグモ　　長田地区の木津川川原の石間を数多く徘徊していた。川原で普通に見られるキシベコモリグモが上野市からは未発見である。

37　オビジガバチグモ　　草地の地上を徘徊するが、採集記録は少ない。千歳にて雄亜成体を採集。三重県初記録種。

38　コフクログモ　　今まで筆者がコフクログモと同定したものは、大部分がイナフクログモであった。今回、新長田橋付近の川原にて採集した個体が改めて緒方によりコフクログモと確認された。

39　フクログモ属の一種　　諏訪にて雌成体を採集。おそらく新種であろう。

40　アワセグモ　　田守神社の板塀の間にいた。扁平なクモ。県8例目の記録。

41　ヤマトフトバワシグモ　　蔵縄手の雑草地の地表を徘徊していた。三重県初記録種。

42　クロケムリグモ　　西日本から記録されており、近隣の愛知県、京都府、大阪府でも確認されているが、三重県では今回が初記録である。西高倉、白鳳公園、千歳、比土にて採集した。

43　ワシグモ科の一種　　比土、蔵縄手、守田町で各雌3種を採集した。おそらく新種であろう。

44　コカニグモ　　千歳にて樹皮下より採集。伊勢市、伊賀町、上野市にて記録がある。

45　クマダハナグモ　　1985 年に新種記載された。三重県では、既に数カ所で採集されていたが、今回正式に三重県初記録種として同定された。

46　マツモトオチバカニグモ　　喰代にて、山間のリター中から採集された。三重県初記

録種。

47　チクニエビスグモ　　草木を徘徊し、本州では高地で見られる種である。蔵縄手にて採集した。三重県初記録種。

48　フノジグモ　　北方系のクモ。三重県では伊賀上野地域を中心に 10 カ所で確認されている。今回、蔵縄手にて幼体８頭を採集した。

49　クワガタアリグモ　　新長田橋付近の川原の草間、石間を徘徊していた。過去に松阪市で雄の記録があるが、今回は雌２頭が採集された。

50　コガタネオンハエトリ　　三重県では各地で採集記録がある。諏訪、 新長田橋付近の川原にて採集した。

51　マミジロハエトリの一種　　「日本クモ類大図鑑」（千国著）に掲載されているＡ型、Ｃ型等３種を採集した。

※　シノビグモ　　和名が上野市に因んでいるため、市域の河川源流付近を精査し、発見に努めたが確認できなかった。山が低く、深い渓流や岩清水の当たるような生息環境がない。県内では 11 か所で記録がある。

※　岩倉大橋付近の川原にて実施された環境アセスメントの報告書には、キヨヒメグモ、チュウガタシロカネグモ、ハラビロアシナガグモ、ミドリアシナガグモ、エビチャコモリグモ、カワベコモリグモ、ナミコモリグモ、アライトコモリグモ、ヒメハナグモの記録があるが、同一場所での再三の調査で確認できなかったため、資料としては用いなかった。

合宿に初参加して

石井　こうこ*

クモに興味を持って、と言うより、興味はあったのですがなかなか全て（気持ちと観察のための時間と参考書と）の始めの一歩が出しづらかった事と…。

愛知県森林公園の自然観察会で、こわれた金色の網を見つけてクモもそっと見てみたものの、何グモですか？と聞かれて、全然わからない、知らないのである。自然観察指導員としてちょっと恥ずかしい。不完全燃焼のまま帰宅。思い切って小笠原さんに電話していろいろ教えていただき、フィールド図鑑も手に入れて、それなりにクモを探してみて…。オナガグモとその卵のうを見つけてしまってからは一気にクモとの関わりが深まり、発熱してしまった訳です。　そこで、「まどい」を読み返してみるとすぐ合宿の案内が目に入ってきました。ん・・・・・・行っちゃおうかなー、私みたいなまるっきりの初心者でもいいかな…。何もわからない強みとでもいおうか、興味が湧いてきたその時だし、今年は熊野古道の年だしと、前置きが長くなりましたが、出かけることにしたのです。

台風くずれの悪天候の中、ＪＲに乗り込みました。熊野市駅に着くとお昼です。めはり寿司とさんま寿司を柴田さんと半分ずついただき、集合時間までにはまだ時間があったので、海へ出かけてみました。台風の余波の大波、そしてスコールでビショビショになりながら雨宿りした所の門にいたクモの観察が、今日の観察の始まりでした。

皆と顔合わせしてから観察場所へ。クモを見つけることはできるのですが、名前がわからない。当てずっぽうで、（手が長くて、テナガザルを思い浮かべてしまって）『これはテナガグモ？』　すかさず私の後方からちょっとグスッとした声が『アシナガグモ！』あっそうですか、手じゃなくて足ね。ウンウン前脚か。次々とクモが現れては、その名前を言ってくれるのですがあまり頭に入りません。時折飛んでくるクロアゲハやオニヤンマが気になってしまいます。いつものクセです。目の前に現れた昆虫を追いかけてしまうのです。ついついネ。イヌビワを食べながら、これがエビグモ（フムフム）、これがガザミグモ、シャコグモ（フムフム）。エビやシャコがいるのなら、タコやイカは？いないのですか？（タコは８本足だからなんとなくクモの仲間と感じるのは私ぐらいか…）

タコグモ　 　イカグモ　

皆シーンと答えてくれず、２回も同じ質問をしてしまった…。アホなこと言っちゃった、と一人落ち込みましたがオニヤンマが目の前でホバーリングしてくれ、じっくりと見ることができて笑みがもどりました。

＊〒463-0035　愛知県名古屋市守山区森孝4-147

いろいろな場所に案内してくださった三重の方々に感謝。丸山の千枚田なんてまさか行けるとは思っていなかったのでうれしいこと。テレビでしか見たことのないナゲナワグモのムツトゲイセキグモはベース型で、柿の葉にいっぱいついていました。夜には白かったそのムツトゲイセキグモの産みたての卵のうが、朝には黒く変わっていたりしておもしろく、これぞ合宿！　帰ってからもついつい柿の葉裏を見てしまいます。

翌日の御浜町でのキノボリトタテグモにいたると、気分は最高！　次々にトタテグモを見つけては一人でキャーキャー、卵のうを見つけて永井さんとキャーキャー、うるさいおばさんとの悪い印象を与えてしまったかな。

同室の佐藤幸子さんにはクモの育て方を教わったり、自然観察会の先駆者だった話を聞いたり、名前も同じで盛り上がり、楽しかったです。須賀先生が、“幸”という字はクモに幸あれ、幸せを運んでくるよと、佐藤さんと私と小笠原さんもみな“幸”が名前に入っていたのでした。

久しぶりに楽しく興奮した２日間で、帰りにはくたびれて、こてっと寝入ってしまいました。まるでガキです。初心者にもやさしい皆様に、感謝感謝の初合宿でした。

三重クモ談話会活動報告

○三重クモ談話会同定学習会
期　日　平成11年1月31日(日)
場　所　四日市医師会館会議室(四日市市西新地14番20号)
参加者　須賀瑛文、緒方清人、永井均、橋本理市、貝發憲治、塩崎哲哉、
武藤茂忠夫人、太田定浩

採集観察会で顔を合わせる度に、誰からともなく「一度同定出来ない標本を互いに持ちよって、同定学習会のようなものをしたらどうだろう」と言い続けてきたが、期が熟したのか今年はぜひ実行しようということになった。場所は愛知・岐阜県に近い四日市でということにした。その係を引き受けたものの、冬のことゆえ暖房の有るところで机椅子も必要、そして経費が安いこととなると学校でと考えたが、これがなかなか思うようにはいかない。そのとき武藤先生から、奥さんが勤めてみえる四日市医師会館が使えそうだと耳寄りな話を教えていただき、四日市医師会に所属する知り合いの卒業生がいたこともあって立派な会議室を借りることが出来た。

10時集合ということで、岐阜から須賀さん、永井さん、愛知から緒方さんもご参加いただき、持ち寄ったビノキュラ、照明装置をセットしてそれぞれが持ってきた標本を見ながら、あれかこれかと図鑑、文献をみながらの勉強、緒方さんの描かれた外雌器や触手の図のファイルに感嘆し、永井さんの数え切れないような数の外雌器や触手をはじめ外形の鮮明な写真の数々に驚嘆しながら、図や写真の説明に納得したり、此処が少し違うようだがなどと4台のビノキュラをあっちへ行ったりこっちへきたりと、時間の過ぎるのも忘れて熱中、気がついたら昼。近鉄四日市駅近くの食堂で昼食をとる人、弁当を購入してきて食べながらなお標本の同定をする人、とにかくみんな熱心で初めての同定学習会はまずまずよかったと思われた。帰りの時間の事もあって、心を残しながら15時には終了した。

同定の経験に個人差もあり、多くの標本に接している方々に教えられるところが多かったが、それでも種の決定が困難なものもかなりあったのも事実で、今後への問題点として、ヒメグモ科とかサラグモ科とかに絞って、それぞれの科の専門家を招いて同定していただきながら、同定のポイントや注意すべきところなどを学習する会に発展させていくべきかなとも感じたことであった。ともあれ、この会では武藤先生の奥さんに大変にお世話になった事に対し、参加者と共に厚く御礼を申し上げたい。　(太田定浩記)

○平成10年度第5回　冬の採集観察会兼総会、親睦会、同定会

期　日　平成11年3月21日(日)～22(月:祝)

場　所　北牟婁郡紀伊長島町東長島田山（C3619-3412）、海野鏡神社周辺（C3619-3410）
紀伊長島町志子（C3619-3413）、度会郡大内山村米ヶ谷（C3620-3415）

参加者　太田定浩、貝發憲治、斎藤慎一郎、塩崎哲哉、新海　明、須賀瑛文、
谷川明男、武藤茂忠(8名)

1月に行われた四日市市での同定学習会が盛況で、全く時間が足りなかったことや、一度ゆっくりと親睦会を持ちたいという希望があったこと、今回の採集観察会にわざわざ東京から参加していただけるとのこと、調査地が三重県南部で遠隔地であること等を考慮して、今回は欲張って、1泊2日でこれらの会全部を一度にかなえられるような計画をした。

3月21日はまたもや曇り空で雨が降りそうな日であった。JR紀伊長島駅前12時集合であったので、採集道具や標本、ビノキュラー等を車に満積して、少し余裕を持って10時に家を出た。ところが、栃原辺りからポツポツ雨が当たって来たのに加え、予想外の渋滞で全く動かなくなってしまった。20分、30分・・・と経過、このままでは間に合わない。そこで、ここは普段採集で横道や山道ばかり走っている強み、旧道へ逃げることにした。所々で見える国道の渋滞を確かめながら、一山越えたところで国道へ出た。運良くその50m程手前で交通事故を起こしており、現場検証中で完全にストップさせられていたため、下り方向はガラガラである。集合時間には間に合わないが、上りの渋滞を横目に長島へ飛ばしに飛ばした。雨はいよいよ本降りとなってきた。

10分遅れで駅前に到着すると、車の太田、武藤、塩崎さん、JRの斎藤さんが既に待って見えた。事情を話したところ、武藤さんは私の15分程前に、何事もなく栃原を通過したとのことであった。岐阜の須賀さん夫妻がまだみえていない。渋滞に巻き込まれている可能性もあるので、近くのスーパーで昼食を買い、食べながら待つことにした。雨のため駅横にあるふれあい広場「マンドロ」(紀伊長島町の総合案内兼、芸術・文化催事場だと思う)へ行き、事情を話して談話室で昼食をとらせてもらいながら、採集場所の確認や長島の案内パンフを見て時間を過ごした。1時10分過ぎになったが、まだ須賀さんがみえないので、後の計画もあり、ひょっとしたら東京の新海さん、谷川さんが到着する3時と集合時間を間違ってみえるかもしれないということで、とにかくいったん「田山地区」へ採集に出かけることとした。ここは駅から15分ほどの所にある集落で、山道入口の田畑や河川、雑木林で採集を開始した。思い思いに蜘蛛を探して歩いたが、雨のため、ビーティングやシフティングは水をすくっているようなもので、ほとんど収穫はない。ハリゲコモリグモ、ワカバグモ、コハナグモ、ヒラタグモ、コガタコガネグモ等が確認できた程度である。成果が期待できないので少し早く切り上げて、2時30分に紀伊長島駅へ戻ったところ、須賀さんが待ってみえた。1時15分に着き、奥さんはそのまま車で紀伊勝浦へ向かわれたとのことであった。わずか5分の違いで1時間以上も待ってもらい、大変申し訳ないことをした。やはり、渋滞で全く動かなかったようである。

その後、JR で到着した新海、谷川さんを乗せて宿舎の近くの「海野」で採集することとした。濡れた合羽を着て再び大雨の中を歩くのは、何とも気が重い。岐阜や 2 回の熊野の合宿採集をはじめ、雨の日の採集会になることが極めて多く、誰か雨男でもいるらしい。そんな愚痴を言いながら、海野神社でキノボリトタテグモを探したり、海岸に面した山道や工場の空き地を約 1 時間歩いたが、季節も悪くあまり種数は確認できなかった。「宿でゆっくり風呂へでも入り、早くご馳走にありつきませんか。」・・・、楽な方向への話はすぐにまとまって、4 時 30 分に早々と本日の旅館「紀の国」へ到着した。

この旅館は、私が大学を出て初めて長島高校の教員になったときに教えた生徒が経営している旅館で、堤防のすぐ側に立っており大変見晴らしがよい。生徒の臨海実習や生物教員の調査・研修、ウニの発生標本作製時にはいつも気軽に利用させてもらっていてる。昭和 54 年には日米合作映画「しょうぐん」のロケがこの海岸で行われ、三船敏郎らがスタッフとともに 2 ケ月ここに滞在し、また、昭和 56 年にはフジテレビのドラマロケで竹脇無我、西村晃らが宿泊して話題となり、ロビーにはこれらの多くの写真が飾ってある。

部屋へ入り濡れた衣服を着替えると、さすがに真面目な面々である。休む間もなく早速、新海、谷川さんを囲んでクモのリスト作りの話になった。県別リスト作成の必要性やその内容、方法等について解説をしてもらった。三重県の産地は過去の発表データをすべてコンピュータ入力しているが、まとめるとなると、また、大変な作業になる。どなたか担当していただける人はフロッピーをお使いください(エクセルソフトで 50 行 16000 列の表〔約 5MB〕になっている)。その後、熊野灘が一望できる風呂で入浴して、6 時 30 分から総会と親睦会を行った。新鮮な舟盛りの刺身や海産料理に大満足しながら話も弾んだ。各人のクモ研究に入った動機や新海さんの塾と学校講師の職業意識の違い、蜘蛛学会の人人の「クモ好き」を通り越した「クモ中毒患者」の話等々、録音しておけばよかったと思うくらい面白い話だった。8 時からは相変わらず外は雨なので、それぞれ持ち寄った難しい種の同定を谷川さんにしてもらいながら、有用な情報交換をして 12 時に就寝した。

翌 22 日は晴れであったが、風が強くて寒い日となった。8 時 30 分に宿を出て、度会郡大内山米ケ谷へ向かった。雑木林や田の畦、河原、雑草地を採集したが、みぞれの降る中結果は今ひとつであった。帰りに近くにある「ふれあい牧場」へ寄り、牛や馬、羊等の畜舎を見学しながら休憩した。新海、谷川さんは大枚叩いて 500 円の名物の「牛乳うどん」を注文。ここは、牛乳風呂が有名なので、皆、うどんも牛乳煮込みの白いうどんを想像して興味深く待ったが、出てきたのはただの素うどん。「牛乳でうどんが練ってある」ということでがっかりであった。昼前に再び紀伊長島町へ戻り、最後の採集地、「志子地区」へ行った。ここは、米ケ谷とツヅラト峠越えでつながる熊野古道の紀伊長島入口に位置する地区で、今までほとんど顧みられなかったが、本年度三重県が企画した「東紀州フェスタ」の一環として、熊野古道巡りで多くの人が行き来している。峠から降りてきた員弁町の厚かましいおばさん連ご一行を斎藤さんが適当にあしらいながら採集を続ける。アズマキシダグモやヌサオニグモの観察をした後山道へ入り、今度は須賀さんの指導でカネコトタテグモを探した。私はほとんど見たことがないが、その目で

見ればいるものである。すっかり感心しながら何頭もじっくり観察できた。

帰りの列車の時刻が近づいてきたので、採集はこれで終了し、紀伊長島駅へ移動した。30分程余裕があったので、全員でふれあい広場「マンドロ」へ再び入り、展示されている巨大灯籠(7 月に行われる「灯籠祭」で使われた巨大な山車で、青森のねぶたの山車とよく似た構造)を見学した後、3 時前に解散。須賀さんは下り特急で紀伊勝浦へ、斎藤、新海、谷川さんは上り特急で帰られた。せっかく遠方から来ていただいたのに、あまり成果がなかったことを反省しながら、私は、例によって地図を頼りに、とんでもない横道へ気ままにぐるぐる周りしながら、夜無事に帰宅した。　　(貝發　記)

目　　録

No	科　　名	和　　名	田 山	海 野	志 子	米ケ谷
1	トタテグモ	キノボリトタテグモ		♀ A1		
2	ウズグモ	マネキグモ				y1
3	ヒメグモ	オオヒメグモ	y1		y1	
4		カレハヒメグモ		♀ A1		
5	サラグモ	クスミサラグモ			♀ SA1	♂ SA1
6		ユノハマサラグモ	y1			♂ A1
7		ズダカサラグモ			♀ A1,y1	
8		コテングヌカグモ			♀ A1	
9		サラグモ科 SP.				♀ A ♂ A
10		サラグモ科 SP.		y3	y2	
11	コガネグモ	ヤミイロオニグモ	y2			
12		コガタコガネグモ	y1			
13		ゴミグモ		♀ A1	y2	
14		カラフトオニグモ	♀ SA1			
15	アシナガグモ	ヒメアシナガグモ			♀ A3 ♂ A1	
16		ウロコアシナガグモ				y1
17	タナグモ	シモフリヤチグモ		♀ A1		
18	キシダグモ	アズマキシダグモ			♂ SA1	♀ SA1
19	コモリグモ	ウヅキコモリグモ	y2	♂ A1,y1	♀ A1 ♂ A1	♀ A1
20		クラークコモリグモ	y2			
21		チビコモリグモ			y1	
22		pirata 属 SP.			y1	
23	イヅツグモ	イヅツグモ				♀ A1 ♂ A1
24	シボグモ	シボグモ				y1
25	カニグモ	ワカバグモ				y1
26	エビグモ	キンイロエビグモ	♀ SA1			
27		アサヒエビグモ			y1	

○平成 11 年度第 1 回　春の採集観察会

期　日　平成 11 年 5 月 30 日(日)　晴れ

場　所　(1)久居市牧町須賀瀬橋下雲出川河川敷(C3628-3439)
　　(2)一志郡香良洲町香良州海岸（稲木）(C3633-3439)
　　(3)一志郡香良州町馬場河川敷(C3632-3438)

参加者　太田定浩、貝發憲治、塩崎哲哉、橋本理市

第 1 採集場所は雲出川河口より約 10 キロほど上流の須賀瀬橋の下流の河川敷で、堆積土に石が混じった貧弱な植生の一部水がたまり、チョウトンボの類があちこち見られる場所と、葭が背の高さほど茂ったところ、深い川の流れに接した堤防ベリで、びっしりと雑草の生えている所であった。腰のあたり位の高さの草がまばらに生え、あちこちに水溜りがみられる境界部分のくぼみで、たくさんのコサラグモ科の成体がみられた。

第 2 の場所は香良州の海岸の砂浜に、コウボウムギ、ハマダイコンなどがパラパラと見られるところで生き物の姿はあまり見られなかった。みんなでイソコモリグモを捜してみたが、結果は悲観的なものであった。

第 3 の場所は、河口より 1 キロほど上流部の堆積土が畑になっている河川敷で、背の低い雑草がびっしりと生えている所であった。環境が単調なためか、種類は多くみられなかった。　（橋本　記）

目　　録

No	科　名	和　名	牧　町	香良洲海岸	馬　場
1	ガケジグモ	ヤマトガケジグモ	♂ Al		
2	ヒメグモ	ヒメグモ			Y3
3		ヤホシサヤヒメグモ	♀ A1,♂ SAl		
4		ハンゲツオスナキグモ	1		
5		スネグロオチバヒメグモ	AlS		
6	サラグモ	ハラジロムナキグモ	♀ A3		♀ A
7		ニセアカムネグモ	♀ A3		
8		クロナンキングモ			♂ Al
9		チビサラグモ			♀ Al
10		チビアカサラグモ	♀ Al		♀ A
11		セスジアカムネグモ	♂ A1,Yl		
12		サラグモ科 sp			Yl
13	コガネグモ	ナガコガネグモ			Yl
14		コガネグモ属			Yl
15	アシナガグモ	ヒメアシナガグモ	♀ Yl		
16		トガリアシナガグモ	Yl		
17		ウロコアシナガグモ	Yl		
18		アシナガグモ			♂ A
19		アシナガグモ科 sp	1		
20	タナグモ	クサグモ			Y1

No	科　　名	和　　名	牧　　町	香良洲海岸	馬　場
21	キシダグモ	イオウイロハシリグモ			Yl
22	コモリグモ	エビチャコモリグモ		♀ A	
23		ヒノマルコモリグモ			♂ Al
24		ウズキコモリグモ	♀ Al		Al
25		ハリゲコモリグモ	♀ Al		
26		コモリグモ科 sp	♀ SAl		
27	ササグモ	ササグモ			♀ Al
28	フクログモ	ヤマトコマチグモ			♀ A2 ♂ Al
29		ハマキフクログモ			♂ Al
30		ヒメフクログモ	♀ Al ♂ A2		♀ Al Y1
31		フクログモ属 sp	Al		
32	カニグモ	ハナグモ	♀ A2 ♂ Al		♀ A2 ♂ Al
33		ヤミイロカニグモ属 s	Y2		
34	エビグモ	シロエビグモ	♀ SA		
35		アサヒエビグモ	♀ A1Y2 ♂ A1		♀ A1Y2 ♂ A1
36		ヤドカリグモ	♀ Al		
37	ハエトリグモ	ネコハエトリ	♀ Al		
38		カタオカハエトリ		♀ A4 ♂ SA	
39		ヒメスジハエトリ			1
40		マミジロハエトリ spC 型	♂ Al		
41		ヤハズハエトリ	♀ A1、♂ SA1		
42		オスクロハエトリ	Y		
43		マミグロハエトリ	1		
44		タイリクアリグモ			1
45		アリグモ	♀ Al		
46		メガネアサヒハエトリ	♂ Al		
47		デーニッツハエトリ			Y1
48		アオオビハエトリ			♀ Al
49		シラホシコゲチャハエトリ		1	

○平成11年度第２回　夏の採集観察会（中部蜘蛛懇談会との合同合宿）

①期　日・場　所　平成11年８月７日

三重県熊野市井戸町松の木　簡保センター裏(C3606-3353)

三重県南牟婁郡紀和町湯の口（C3553-3351）

三重県熊野市有馬町　ＪＲ有井駅（C3605-3352）

三重県熊野市井戸町松原　徐福荘周辺（C3605-3352）

②期　日・場　所　平成11年８月８日

三重県南牟婁郡御浜町上市木　八幡神社周辺（C3601-3350）

参加者　佐藤幸子、伴　　満、石井幸子、柴田良成、須賀瑛文、永井　均、
太田定浩、橋本理市、貝發憲治、塩崎哲哉

朝目が覚めると、またしても雨の音である。今日は、中部蜘蛛懇談会との合同合宿の日。過去２回雨にたたられ、今度こそはとの願いもむなしく雨の幕開けであった。

１２時５０分熊野市駅集合とのことで、少し早めに出かける。和歌山の稲垣さんがすでに到着されているが、都合で参加できないとこと。和歌山県那智で採集したというヒゲナガハシリグモを見せていただく。やがて、貝發さんの車で太田さん、橋本さんが、須賀さんの車で永井さんが到着。列車にて、石井さん、柴田さん、それに、神奈川から佐藤さん、伴さんが到着され、総勢１０名となる。

まず最初、前回の合宿の折りにも出かけた、簡保センター裏に出かける。キヌアミグモ、ムツトゲイセキグモを期待したが、残念ながら発見できず。途中土砂降りの雨が降るなどの天気の中、およそ２時間で切り上げる。

その後、紀和町湯の口の柿畑に筆者が前日確認したムツトゲイセキグモを見に行く。この地では、過去５年間、毎年観察することができている。柿の葉裏に卵嚢をもったムツトゲイセキグモを観察する。他にいないかと探すと、石井さんが、ここにもいるよ、ここにも・・・、ということで、近くの２本の柿の木から総数１０頭余りのムツトゲを発見する。誰かから、こんなにいるとありがたみがなくなるね　という声が出るほど。投げ縄行動が観察できないかと期待し、卵嚢をもった個体を枝ごと折りとって持ち帰ることにする。途中、丸山の千枚田を観光し、紀伊有井駅でクロガケジグモを観察し、今夜の宿、徐福荘に入る。

自己紹介をしながらの夕食の後、宿の近辺で１時間ほど夜間採集を行う。宿に帰ってみると、ムツトゲイセキグモが糸疣を押しつけるようにしながら卵嚢をつくっているところであった。しばらく観察した後、採集した標本や持ち寄った標本を検鏡しながら、蜘蛛談義に花を咲かせた。

翌日は、快晴とまでは行かないが、まずまずの天気であった。車で、御浜町上市木の八幡神社に向かい、その周辺で採集をする。アシダカグモやキノボリトタテグモ（卵嚢をもったものもいた）、コマツエンマグモ等を観察採集する。付近の水田地帯も観察するが、あまりいない。２時間半ほどで切り上げ、昼食をとったあと、１時過ぎ、熊野市駅にて解散する。（塩崎　記）

目　　録

NO.	科　名	和　　名	松の木	徐福荘	有井駅	湯の口	上市木
1	トタテグモ	キノボリトタテグモ					○
2	ガケジグモ	クロガケジグモ			○		
3	ウズグモ	オウギグモ					○
4		マネキグモ					○
5		カタハリウズグモ	○				○
6		ウズグモ	○				○
7	エンマグモ	コマツエンマグモ					○
8	ヒメグモ	カグヤヒメグモ		○			

NO.	科　名	和　名	松の木	徐福荘	有井駅	湯の口	上市木
9	ヒメグモ	ヒメグモ		○			○
10		コンピラヒメグモ		○			
11		オオヒメグモ	○				○
12		アシブトヒメグモ	○				○
13		シロカネイソウロウグモ	○				
14		オナガグモ		○			
15		キベリミジングモ		○			
16		カニミジングモ		○			
17		ムラクモヒシガタグモ		○			
18		ハンゲツオスナキグモ	○				
19		サトヒメグモ		○			
20		ムナボシヒメグモ	○	○			
21		ハイイロヒメグモ	○				
22	サラグモ	チビサラグモ	○				
23		サラグモ属sp.					○
24	センショウグモ	センショウグモ		○			○
25	コガネグモ	ハツリグモ	○				
26		アオオニグモ	○	○			
27		ヌサオニグモ				○	
28		コゲチャオニグモ		○			
29		ハラビロミドリオニグモ				○	
30		コガネグモ	○				○
31		ナガコガネグモ	○				○
32		コガタコガネグモ		○			
33		ギンメッキゴミグモ	○				○
34		シマゴミグモ	○	○			
35		ゴミグモ	○				
36		キヌアミグモ					○
37		ワキグロサツマノミダマシ		○			
38		ヘリジロオニグモ		○			
39		ジョロウグモ	○				○
40		ムツトゲイセキグモ				○	
41		ズグロオニグモ			○		
42	アシナガグモ	チュウガタシロカネグモ	○	○			○

NO.	科　名	和　　名	松の木	徐福荘	有井駅	湯の口	上市木
43	アシナガグモ	ヤサガタアシナガグモ	○				
44		アシナガグモ					○
45	ヒラタグモ	ヒラタグモ		○			
46	タナグモ	コクサグモ	○				
47	キシダグモ	イオウイロハシリグモ	○				
48	コモリグモ	クラークコモリグモ					○
49	ササグモ	シマササグモ					○
50		ササグモ	○				○
51	フクログモ	イタチグモ	○				○
52	アシダカグモ	コアシダカグモ					○
53		アシダカグモ					○
54	ワシグモ	ワシグモ科sp.					○
55	カニグモ	キハダカニグモ					○
56		クマダハナグモ				○	
57		ハナグモ					○
58		ワカバグモ					○
59		ガザミグモ				○	
60		アズチグモ					○
61		アズチグモ				○	
62		セマルトラフカニグモ		○			
63		ヤミイロカニグモ	○				○
64		オオヤミイロカニグモ					○
65	エビグモ	キハダエビグモ					○
66		アサヒエビグモ	○				
67		シャコグモ	○				
68	ハエトリグモ	ネコハエトリ					○
69		マミジロハエトリ	○				○
70		ウデブトハエトリ	○				
71		エキスハエトリ					○
72		オスクロハエトリ					○
73		アリグモ					○
74		メガネアサヒハエトリ					○
75		デーニッツハエトリ	○				○
76		チャスジハエトリ					○

NO.	科　名	和　　名	松の木	徐福荘	有井駅	湯の口	上市木
77	ハエトリグモ	ミスジハエトリ		○			
78		カラスハエトリ					○
79		アオオビハエトリ	○				○
80		シラホシコゲチャハエトリ					○

以上２０科８０種

○平成11年度第４回　秋の採集観察会
期　日　平成11年12月5日（日）
場　所　久居市小戸木町（C3627-3439）庄田町中川原（C3625-3440）
参加者　太田定浩、貝發憲治、武藤茂忠

９月に予定されていた秋の採集観察会が、都合のつかない人が多くて中止となり、冬の12月まで間が空いてしまう結果となった。

前日は抜けるような青空で、初冬とは思われないような好天であったのに、今日は曇りで、朝方には少し雨がパラつくという、あいにくの日和となった。

太田先生と車で久居駅に向かい、９時 25 分頃到着。９時 35 分頃に到着する電車で誰か参加者が下りられるかと、太田先生が確認に行かれて、すでに車で到着しておられた貝發先生と合流。結局、参加者は３人だけとなる。

最初の調査地点は、久居市と一志町の境界付近の、雲出川にかかる小戸木（こべき）橋下手の雑木林となった。堤防上に「雲出川河口より 10.6km」の標柱が立っている。

林内は枯れたセイタカアワダチソウなどが茂り、地表をつる性植物が這っていて、採集作業を手こずらせる。実が落ちているので見上げると、あちこちにセンダンの木が生えている。少し下手はダイコン畑となっており、雑木林との境に、幹の焼けこげた木が何本か立ち枯れとなっている様子から、開拓中と思われる。南方を流れる波瀬川との合流点に近く、中州のような場所なので地味も肥えているのだろう。

昼頃まで調査をして、次の　調査地の雲出川の川原へ移動。

ブッシュの間を軽四１台がようやく通れる程の道があったが、さすがに我々の車は、両側を擦り傷だらけにして通過。太田先生評して’満身創痍’の有様。

昼食後、太田先生の足下の石の下から１匹走り出たのをきっかけに、採集開始。気温は高めで、雲の合間から薄日が射してきた。川原には、ハクセキレイ、セグロセキレイが飛び回り、カイツブリの声に振り向けば、遠く中川原橋の下あたりにアオサギとダイサギが魚をねらうために、コンクリートブロックの足場を争っているのが望まれた。クモ類にとっては単純な環境のようであったが、野鳥には格好の水場なのであろう。

15 時近くにうち切って帰途につく。　　（武藤　記）

目　　録

No	科　　名	和　　名	小戸木町	庄　田　町
1	ウズグモ	カタハリウズグモ	Y	
2	ヒメグモ	カニミジングモ	Y	
3		ヤマトコノハグモ		♀SA
4		バラギヒメグモ	Y	
5	サラグモ	セスジアカムネグモ	♀SA	♂A
6	コガネグモ	キザハシオニグモ	♀SA	
7		ゴミグモ	Y	
8	アシナガグモ	ウロコアシナガグモ	Y	Y
9		アシナガグモ科sp.	Y	Y
10	キシダグモ	アズマキシダグモ	Y	
11	コモリグモ	フジイコモリグモ	♀SA	
12		ウズキコモリグモ	♀SA, ♂SA	♀SA
13		キクヅキコモリグモ		♀SA, ♂SA, Y
14		コモリグモ科sp.	Y	
15	ササグモ	ササグモ	Y	
16	フクログモ	ヤマトフクログモ	♂A	
17		ムナアカフクログモ	♀SA, Y	
18		フクログモ科sp.	Y	
19		ネコグモ	Y	
20	カニグモ	キハダカニグモ	♀SA, ♂A	
21		ハナグモ	♀SA	
22		アズチグモ	Y	
23	エビグモ	キンイロエビグモ（ハラ	♀SA, Y	
24		ジロ型）		
25		アサヒエビグモ	Y	
26		ヤドカリグモ	♀A	
27	ハエトリグモ	ネコハエトリ	Y	
28		デーニッツハエトリ	♂SA, Y	
29		ハエトリグモ科sp.	Y	

編集後記

・前年度紀伊長島町での、冬の採集観察会の後の親睦会で、遠来の谷川さんと新海　明さんが、20世紀の締め括りに「日本のクモ類目録」をつくりたいと熱っぽく話された。これは大変な仕事ではあるが、その必要性と意義には全くの同感。これを成功させるためにはまず、各県の目録整備が必須。本会も設立以来、三重県のクモのファウナ解明に少なからず努力してきた。これまでに会として、また、個人で、あるいは先人や他県の方々の採集記録をもとに、記録された場所を地図に印した地点は、今回発表の貝發さんの上野市の分を加えると、約 350箇所になる。新海さんによると、県内の分布を記録した文献の数は恐らく 100編を越え全国最多であろうとのこと。とはいえ、県の地図を広げてみると、印のあまり無いところがまだまだ沢山ある。お互い協力し合い研鑽努力を続けていきたいものである。

・27号も四日市で編集印刷することになり、相も変わらぬもたもたぶり、ご容赦いただきたい。

・福島さん、緒方さん、新海さん、石井さんの県外の方々の玉稿で、どうにか体裁を整えることが出来ました。厚く御礼申し上げます。　（武藤・太田）

しのびぐも　第27号　1999年12月25日印刷　1999年12月31日発行
編集者　太田定浩・武藤茂忠・貝發憲治・橋本理市
発行者　太田定浩
発行所　三重クモ談話会
（本　部）〒510-0893　三重県四日市市前田町23-2
太　田　定　浩　方
TEL.0593-45-0167　FAX.0593-45-7812
（事務局）〒515-0044　三重県松阪市久保町1843-157
貝　發　憲　治　方
TEL.・FAX. 0598-29-6427